

# 旭川市地域公共交通会議

平成23年12月20日設置



## 概要

旭川市は、北海道のほぼ中央に位置し、面積は約748 km<sup>2</sup>で、大雪山に囲まれ、石狩川をはじめとする多くの河川が流入する中において都市機能が集積する北海道の拠点である。人口は2022年4月1日時点で326,057人であり、北海道で2位の規模となっている。人口推移を見ると、北海道全体と同様に1995年まで増加してきたが、2000年以降は微減に転じており、将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)においても、人口減少と少子・高齢化が進行すると予測されている。

## ○地域公共交通の現況

公共交通は、鉄道、路線バス、デマンド交通、タクシーで構成されており、鉄道は4本のJR線があり、路線バスは民間5社による地域間幹線と、民間2社による市内路線が運行されている。

市内の鉄道駅は16駅あるが、旭川駅と永山駅以外は無人駅であり、1日の平均乗車人員の約8割は旭川駅となっている

## ○地域公共交通の課題

- ・交通サービス維持のための財政負担や運転手不足
- ・継続的な利用者の減少
- ・まちづくりと連携した公共交通

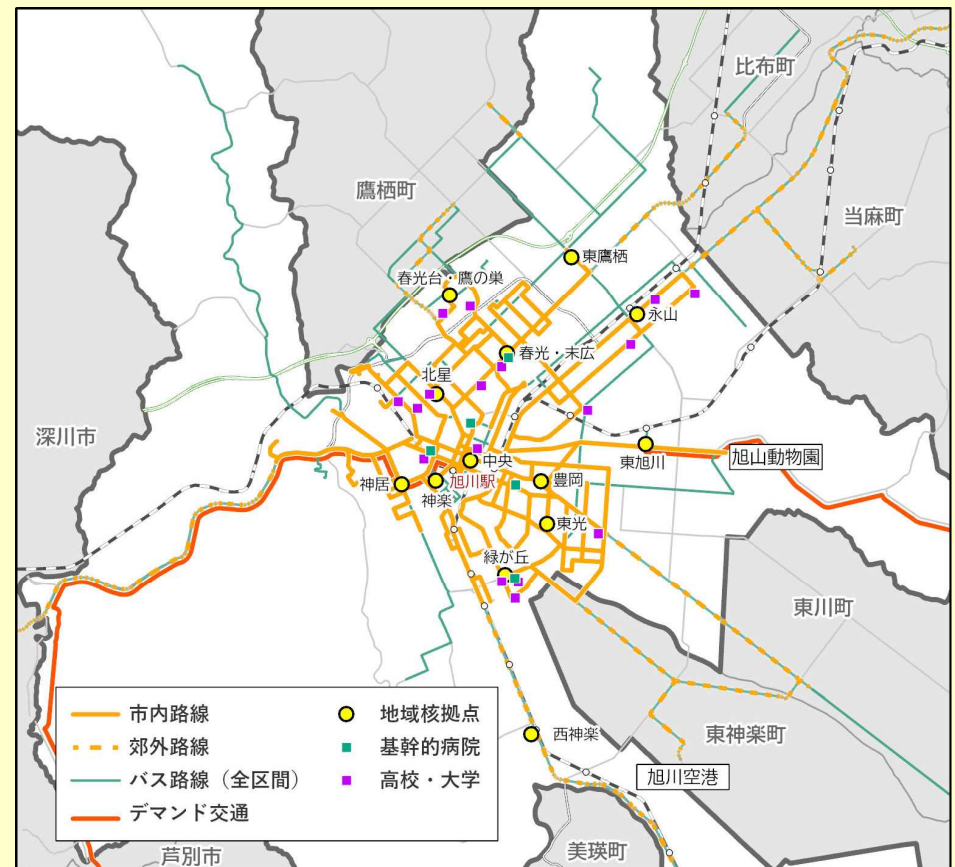
## ○調査の主な内容

- ・旭川市及び旭川市の公共交通の現状整理
- ・公共交通の利用実態及びニーズ把握
- ・旭川市地域公共交通計画(案)のとりまとめ

## ○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 4月28日 令和5年度第1回旭川市地域公共交通会議
- 10月10日 令和5年度第1回旭川市地域公共交通網形成計画分科会
- 1月11日 令和5年度第2回旭川市地域公共交通会議
- 1月24日 令和5年度第2回旭川市地域公共交通網形成計画分科会
- 2月26日 令和5年度第3回旭川市地域公共交通会議

## 公共交通の概要

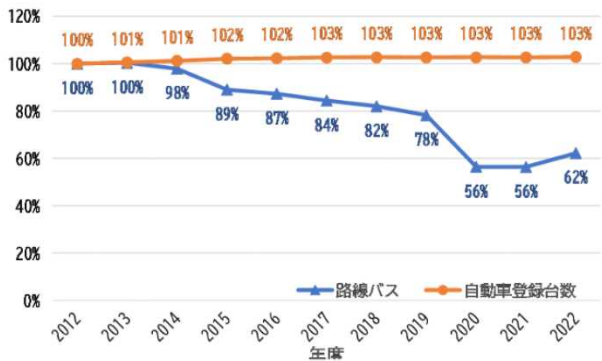


# 旭川市地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

## ●事業の結果概要

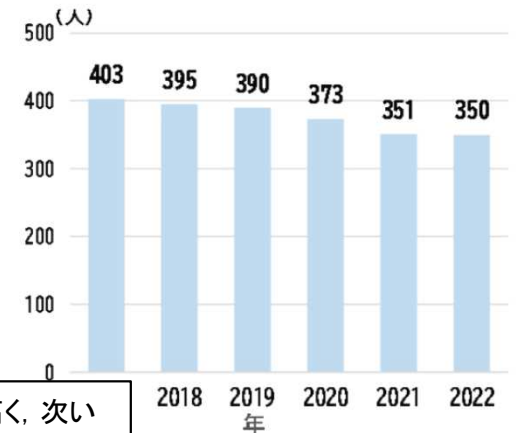
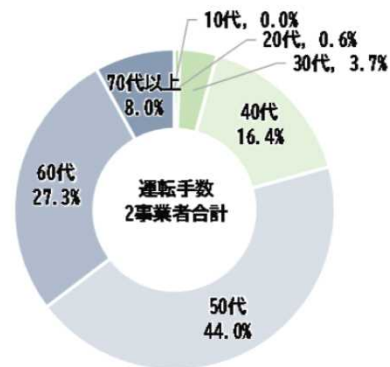
### 旭川市の現状整理 調査結果

#### 利用の激減



・**路線バス利用者は大きく減少**しており、これは、人口減少等が要因であると考えられる。  
 ・2020年以降の利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていると考えられる。

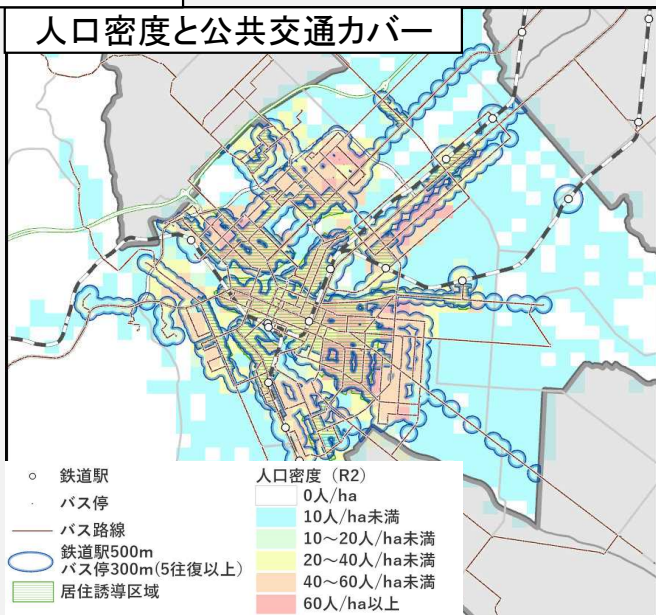
#### 乗務員不足



・バス乗務員の年齢構成は50代が最も高く、次いで60代となっており、約8割が50代以上  
 ・**バス乗務員の数は年々減少傾向**となっている。

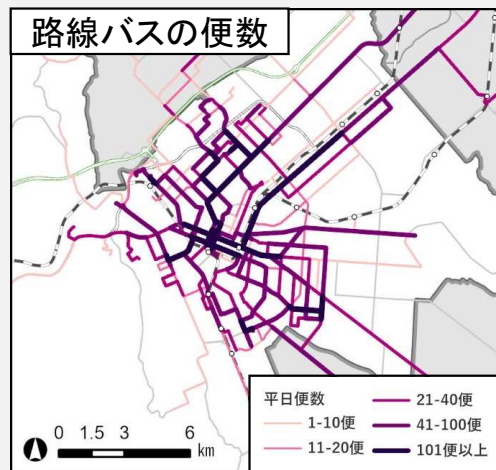
#### 都市構造

##### 人口密度と公共交通カバー



・**人口が中心部や拠点周辺に集積**  
 ・カバー率は79.3% (居住誘導区域内94%)

##### 路線バスの便数



#### 事業者間連携

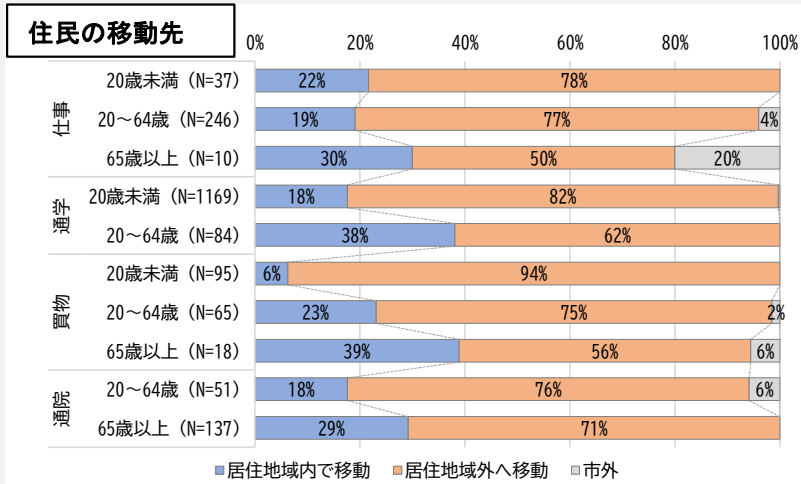
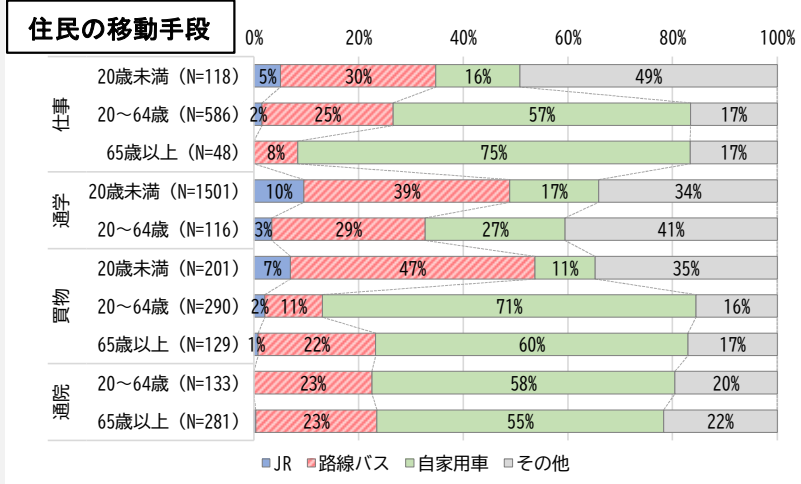


・**実証実験**を経た**事業者連携**による路線の運行

# 旭川市地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

## ●事業の結果概要

### 公共交通の利用実態及びニーズ把握 調査結果



・通学者は他の年齢区分に比べ公共交通の利用割合が高い  
 ・居住地域外への生活移動が多い

不満点	利用者	非利用者
不満はない	23%	19%
行先や方面がわからない・わかりにくい	19%	16%
発着時刻がわからない・わかりにくい	12%	8%
乗り方がわからない・わかりにくい	3%	4%
目的地に行ける路線がない	21%	9%
直通便がない	21%	10%
乗り場まで遠い	15%	9%
乗りたい曜日に運行が無い	11%	2%
運行日が少ない	8%	2%
乗りたい時間に運行が無い	49%	15%
運行便数が少ない	50%	18%
乗継ぎが不便	16%	9%
乗り降りしにくい	5%	2%
乗車時間が長い	5%	2%
運賃が高い	29%	7%
時間通りにこない	25%	6%
現金での支払いが不便	10%	6%
わからない	3%	14%
その他	6%	4%
n値	1,875	1,031

・路線バスの利用者は、運行便数・運行時間・乗り継ぎ時間についての不満割合が高い  
 ・路線バス非利用者は、行先や方面、乗り換え等の路線情報に分かりにくさを感じており、これらが利用の障壁になっている可能性がある

課題	バス同士の乗り換え		バスとJRの乗り換え	
	利用者	非利用者	利用者	非利用者
乗り換え（乗り継ぎ）“時間”が長い	44%	20%	40%	18%
乗り換え（乗り継ぎ）“距離”が長い（バス停同士が離れている）	21%	11%	18%	9%
乗り換え（乗り継ぎ）した場合の運賃が高い	34%	13%	26%	12%
待合環境が悪い（屋根や椅子がない）	32%	15%	15%	7%
乗り換え（乗り継ぎ）に関する情報が不足・分かりにくい	38%	30%	36%	28%
その他	6%	7%	11%	9%
n値	1,833	1,040	1,801	1,009



# 旭川市地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

## ●地域公共交通計画の中間見直しに向けた方針(基本方針, 目指す姿)

### 旭川市・公共交通の現状・課題

#### 現状

- 公共交通の利用者の減少・新しい生活スタイルによる大幅な利用減少, 深刻な乗務員不足
- 人口が中心部や拠点周辺に集積
- 旭川駅を含む市の中心市街地や地域核拠点に機能が集積
- 利用促進・利便性向上のために事業者間連携を推進

など

#### 課題

- 利便性の確保と運行コスト(効率性)を両立した公共交通網の構築・推進
- 乗務員確保のための取組
- コンパクトプラスネットワークの実現に資する公共交通の確保
- さらなる連携による効率化と利便性向上

など

**基本方針1**  
効率性と利便性の確保により持続可能な公共交通の構築を目指す

**基本方針3**  
コンパクトな都市づくりにつながる公共交通の構築を目指す

### 移動実態及びニーズの現状・課題

#### 現状

- 居住地域外への生活移動が多い
- 通学者の公共交通利用
- 路線バス利用者・非利用者のニーズ

など

#### 課題

- 生活利用のための路線確保
- 通学ニーズへの対応と連携強化
- 公共交通の分かりやすさ等の改善

など

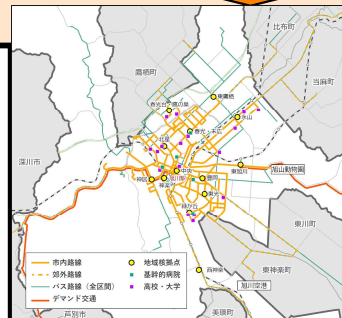
**基本方針2**  
市民にも来訪者にもわかりやすく使いたいと感じる公共交通の構築を目指す

**基本方針4**  
公共交通の維持確保及び最適化, 利用促進に向けて関係者と連携した取組を実施する

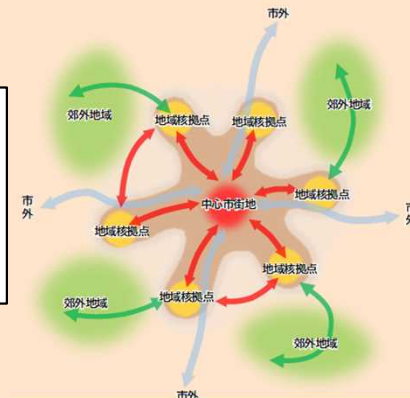
### 本市の公共交通路線網の目指す姿

#### 計画期間中

- ・利便性, 分かりやすさの向上による現状の公共交通を維持
- ・必要に応じて変更し効率的な運行の実現(見直し要素)
- ・デマンド型交通を含む地域の多様な輸送資源の活用(見直し要素)
- ・広域路線の実態, ニーズを踏まえた広域移動手段の確保(見直し要素)



将来イメージ(おおむね15年後)  
都市機能を維持するために最低限必要となる路線を主要な路線として設定し, 主要な路線と支線交通を組み合わせた路線網



# 旭川市地域公共交通会議 計画策定に係る事業の取組状況

## ●地域公共交通計画の中間見直しに向けた方針(目標達成に向けた取組)

### ★利用実態に見合った効率的な運行と利便性の向上

市民にとって利便性の高いバス路線とするため、乗り継ぎ時間の短縮や分かりやすい運行ダイヤへの調整、バスルートの改善などを検討

### ★大型二種免許取得費用などの補助

交通事業者による運転手育成を支援するため、免許取得費用の補助などを実施する

### ★多方面から路線が集中するバス停の分かりやすい乗り継ぎ案内等、乗り継ぎ環境改善の検討

乗り継ぎ環境の向上による効率的な移動を促すため、多方面から路線が集中するバス停の分かりやすい乗り継ぎ案内等、環境の改善を行う

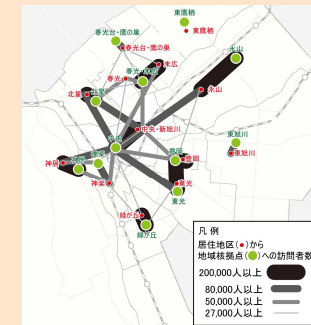
### ★JRとバス会社、バス会社間の相互乗り継ぎ利便の向上の検討

効率化と事業者間の連携の強化を検討

### ★「バスキタ!」や「グーグルマップ」等による路線バスの運行情報や乗り継ぎ情報の提供

情報提供サービスの利用者増加を図る  
決済サービス多様化への対応を検討

など



拠点・居住地域間人流



バス停乗り換え状況



バス情報サイネージ



情報提供サービス

## ●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

## ●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・地域公共交通網形成計画の見直しでの調査であったが、状況の変化に対して多様な関係者からの意見も参考に調査結果をまとめることは大変だと思うが、今後も引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただくとともに、調査から得られた課題等を反映した地域公共交通計画をぜひ策定いただきたい。